

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192902096		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	グループホーム まごころの贈り物 2階		
所在地	旭川市末広東1条3丁目1-4 ケアサポート末広2階		
自己評価作成日	平成29年12月31日	評価結果市町村受理日	平成30年3月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2017.022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0192902096-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2017.022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0192902096-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>笑顔で皆さんが生活出来る環境の構築に力を入れています、毎日楽しく健康にを目標に日々生活を支えています。</li> <li>個人の意見を尊重し、眠さんが色々な場所で、お話をしたり、編み物をしたりすごされています。</li> <li>事業所の勉強会、会社の旭川地区合同の勉強会などを定期的に行い、職員の知識と技術の向上に努めています。</li> <li>入居者様と天気の良い日には散歩や近医受診の時には、車椅子などで季節を感じながら気分転換を図っています。</li> </ul>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年1月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>旭川市末広地区の幹線道路近くの住宅地に位置する2ユニットのグループホームである。建物は3階建てで、2~3階がグループホームとなっている。バス停が近く、商店や医療機関も複数あり、利便性が高い。共用空間は広く、居間と食堂、和室コーナーが別にあり、窓が多く明るい。2階にはベランダもある。浴室やトイレ、エレベーター、床暖房などの設備が充実し、壁には親しみやすい装飾が施されている。利用者同士の仲が良く、和室前の縁側で利用者同士が楽しく会話している。管理者を中心に職員同士が意見を言いやすい関係を築くことができている。地域交流の面では、小学生のほか、手品や楽器演奏、話し相手のボランティアの来訪があり、利用者との交流できている。管理者は地域の事業者を対象に、看取りに関する講習の講師も行っている。家族の来訪時に意見や要望を聞き、お便りのほか毎月利用者ごとの様子を記載して家族に提供している。ケアマネジメントの面では、利用者の現状に即した計画が作成され、アセスメントシート、介護計画、モニタリングシート、カンファレンス記録などの書類が見やすく整理されている。医療支援の面では、利用者が個々のかかりつけ医を継続的に受診できるよう、事業所で通院を支援している。また、看取りについても事業所のできる範囲の支援を実施している。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられる (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1階エレベーターホールと各階事務所に理念を提示しています。また各階フロアーにてフロアー理念を提示し各フロアーの特色が出る様にしています。	事業所独自の理念として「入居者様が地域の中でその人らしい生活ができる」と掲げ、地域密着型サービスの意義を踏まえたものとしている。理念を玄関や事務所、フロアに掲げ、職員は理念の文言や意義をよく理解している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加出来るようにしています。職員が町内活動のお手伝いを実施し、町内活動(廃品回収お祭りなど)に参加しています。新年会忘年会に参加し関係強化に努めています。	利用者は散歩の際に近所の方と会話している。小学生が来て利用者や交流したり、手品や楽器演奏、話し相手のボランティアの来訪もある。今後はお祭りなどの地域行事に利用者が参加できるよう取り組む方針としている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて認知症についての啓発を行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通して、報告、相談、意見などを出してもらい、今後の運営に対して取り組みなどの参考にさせて頂いています。管理者が末広地区の取り組みに参加させて頂いています。	会議を概ね2か月毎に開催し、地域包括支援センター職員、町内会長、民生委員が参加しているが、家族の参加は得られていない。地域交流や研修報告、外部評価などを取り上げている。議事録を家族に送付している。	家族の会議への参加を継続的に呼びかけるとともに、難しい場合は事前に意見を得て、会議に反映することを期待したい。また、運営報告の他に会議のテーマを計画的に設定し、話し合いを行うことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	保護課の職員来訪や、「申請手続き」やホーム内外の「事故報告」や介護保険に関する相談や意見を、その都度または監査課の職員の方に相談させて頂いています。他GHの運営推進会議にも参加させて頂いています。	管理者は必要があれば直接市役所に出向いて相談している。末広地区のグループホーム管理者が集まる会議で情報交換を行っている。管理者は地域包括支援センターの依頼を受け、事業者向けに看取りに関する研修を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、どんなときにも行わないケアを目指しています。資料作成や研修会を行い、ケアを通して利用者様各個人個人の個人性を尊重し日々のケア実践に努めています。	禁止の対象となる具体的な行為を記した身体拘束のマニュアルが整備され、年1~2回、内部研修を行っている。1階の玄関は日中施錠せず、各フロアからエレベーターホールへの出入りがあればセンサー音で分かるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会への参加や、月一回のミーティングの際に「虐待と思われる不適切ケア」に対して話し合いを設けています。毎日の入浴担当者、夜勤職員が寝間着から普段着に着替える時に皮膚観察を行い不適切なケアないか確認しています。		

ふれあいの里 グループホーム まごころの贈り物

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が交代で、研修参加出来るように調整しています。 参加できない職員へも、研修資料配布を行い伝達講習を行えるように努力しなるべく知識の伝達に努めています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・御家族の方へ「契約書」など読みながら説明させて頂いています。 不明や不安のある点、疑問のある点に関して、随時、事例含め説明させていただき、ご理解や納得して頂いた上で、契約させて頂いています。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議「議事録」を開催後に各ホール入り口へ回覧出来るようにファイル掲示しています。 一階玄関に、「意見箱」設置し、来訪時職員などに声をかけやすい雰囲気づくりに努めています。	家族の来訪が多く、その際に意見や要望を聞き、内容を「連絡ノート」や「支援経過記録」に記し、職員間で共有している。3か月毎に「まごころ便り」と毎月の「利用者のご様子」を作成し、家族に送付している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度のミーティングや日頃より、フロアリーダーとの意見交換を行い、管理者会議・運営推進会議内容や御家族からの要望や意見を分かりやすく伝え、意見や提案を確認しています。	月1回、ユニットごとにミーティングを行い、活発に意見交換している。職員はいつでも管理者と気軽に相談することができる。また、職員は食材や日用品管理を分担したり、行事やお便り作りを交替で担当し、運営に参加している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	H25年9月より、「正社員制度」を導入し、条件や責務内容または実績に応じ対象職員への向上に向けた体制作りや、事前に希望休み・夜勤回数希望を聞き入れ、勤務表の作成をしています。 休憩時間の確保や事業所内の整理整頓を行い、環境整備作りを心掛けています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で、職種別(管理職者、中堅1・2、新人)研修・目的別研修を含め、資格取得に向けた外部研修や地域講習への参加や、事業所内勉強会を行えるように、ケアミーティングなどの時間を使いながら、継続して勉強できるように努めています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会のお手伝いや他事業所などの勉強会に積極的に参加し、意見交流などを行っています。月1度の他事業所管理者と情報交換や介護劇に参加し、意見や相談を行っています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時などに、言動や表情観察を行いながら、御本人が「今まで生活してきた」ペースを崩さず、不安や要望を話しやすい環境の中で、傍に寄り添うなど安心感や信頼関係が持てるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前にホーム見学していただき、ホーム内の取り組み、受診や職員体制、料金の詳細説明を分かり易く説明させて頂いています。要望などはフロアリーダーを中心に話し合い、改善に向け関係を築くよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設の方針として、今までかかっていた医療機関との関係の継続に努めています、その方が生活してきた情報を主治医がお持ちなので家で生活してきた生活を施設でもして頂けるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の出来る事を確認し、職員間で情報交換を行い、統一した支援内容で負担が無いように、お手伝いしていただいています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族が来訪された際は、御本人の様子報告や希望など聞きとりを行いながらケアプラン作成したり、年4回「まごころ便り」や月一度の写真付き「ご様子」の中で、日々の様子をお伝えしています。御家族にも協力を頂いております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様との自由な外出や、ご自宅への帰宅・外泊や、電話や手紙等のやり取りや、御家族以外の友人や知人の方に面会に来て頂いた際は、「お名前」を伺い御家族が来訪された際にお伝えしたり、御本人の居室で居心地良く過ごして頂けるよう配慮しています。	2名ほどの利用者に友人が、10名ほどの利用者に親戚の来訪がある。年賀状の返事を自分で作成する方もいる。馴染みの美容室に行く方が3名おり、菓子パンや饅頭を買いに近くのお店に職員と出かける方もいる。護国神社へのお参りの機会も設けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者様の個性を大切にし個性を把握出来るように努め各利用者様が他利用者様と交流出来るように配慮しています。また、居室の行き来など出来るように交流に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された御家族が、ウエスなどを持ってきてくれたり遊びに来て下さります。、入院時には病院の相談員さんと情報交換し途切れのない介護を提供できるように努力しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用し、入居者様の日々の言動について観察し、ご本人様の思いをくみ取り各職員が統一した対応と介護を提供できるようにしています。	6割ほどの利用者は思いを言葉で表現でき、難しい方の場合には家族に聞いて把握している。センター方式のアセスメントシートを定期的に更新し、利用者の情報を蓄積している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や在宅の担当ケアマネージャーの方より情報を頂いたり、御本人や御家族より情報を得ながら、職員で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で情報共有し、統一した介護を提供し介護計画に沿って実行できるように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一度のミーティング・カンファレンス時に職員からの情報や計画評価を行い、御本人や御家族の希望、要望を取り入れながら、ケアマネージャーが介護計画を作成しています。	介護計画を状況に応じて3~6か月で見直ししており、モニタリングシートやカンファレンス記録も整備されている。計画には家族の意見も反映している。日々の記録は介護目標の番号を記載しながら目標に沿って記入している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	法人全体で書式を統一し、各グループ間、フロアー移動などでもすぐに気付けるようにしています。意識統一も図ってケアプランに沿った内容に出来るようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「外食」「買い物」など希望される方へは、個別対応を行い、その都度、御本人や御家族の「要望」に対応出来るようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お花が好きな利用者様と園芸店へ、「種・苗や鉢」を買いに行ったり、地域ボランティアの方々を招き楽しんで頂ける様に努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、御家族の意向に沿った医療機関を受診しています。なじみの医療機関を変更は特別な事情がない限り行っていません。	利用者がそれぞれのかかりつけ医を継続的に受診できるよう、事業所で通院を支援している。受診内容を「支援経過記録」に記載し、必要に応じて家族に報告している。8名の利用者は居宅管理指導も受けている。	

ふれあいの里 グループホーム まごころの贈り物

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の利用者の状況報告や相談は系列施設看護師へ系列看護師対応困難な場合は管理者が看護師の為24時間での相談、緊急対応を実施しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、各医療機関の相談員と情報交換提供を行い早期退院を目指します。病棟看護師、主治医をまじえたカンファレンスや病状説明に参加し、施設で出来る事を明確にし退院援助を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約書と共に、「重度化に伴い方針」に基づき説明させて頂いています。 御本人や御家族の希望を確認し、医師・看護師・職員と十分に話し合い「看取り」についての話し合いを進めて対応が出来るように努めています。	利用開始時に「利用者様が重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、同意を得ている。過去に3名程の看取りを行い、今後も希望があれば事業所で対応可能な範囲の看取り支援を行う方針としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルの作成と、緊急時の連絡先も把握しております。 新しい職員には、「救急救命処置」等の研修参加促しをしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	「消防計画」をもとに、年2回、昼夜を想定し職員が避難訓練内容を考え、「避難訓練」を実施。地域の方へも、参加して頂き協力を得られるように回覧板を用いて参加協力をお願いしています。また、3日分の非常食、水、入居者全員分毛布を準備しています。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を防災設備会社や住民の立ち合いのもと実施しており、災害時の備蓄品も用意している。地震等火災以外の対応についての話し合いは特に行っていない。救急救命は資格を持つ管理者が職員を指導している。	法人の防災マニュアルや市や消防のパンフレット等を参考にして、地震や水害、停電等火災以外の対応について、職員間で定期的に確認の機会を持つことを期待したい。
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報には鍵のかかる場所に保管しています。入居者様各個人に合わせた声掛けを行っています。	職員は法人内の不適切ケアを考える研修を受講し、プライバシーに配慮している。申し送り等で個人名が特定されないよう部屋番号で話している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアを行う上で、職員間にて情報交換を行い思いや希望をかなえられるように取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりが尊厳をもって生活出来るように、体調、その日の気分に合わせて行動してもらっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者自ら衣服を選んで着て頂いたり整容整髪の声掛けを行っています。月一度訪問理美容の利用をしています。		

ふれあいの里 グループホーム まごころの贈り物

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に食事をしお話をしたり出来るような雰囲気づくりを行っています。入居者様にご飯の配膳盛り付けを行って下さるので、ケガをしないように配慮しています。	誕生日は職員が手作りでケーキを作り外食に行く機会もある。屋内でも楽しめるよう、たこ焼きやお好み焼き、ホットケーキ等を一緒に作っている。利用者は配膳等の手伝いをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を各個人記録し、体調に合わせた食事や水分を提供しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は、御本人の出来る事や口腔状態に合わせて、歯ブラシやスポンジブラシを使用したりして、「口腔ケア」を行っています。また歯科往診時には入居者様の口腔ケアなどを相談させてもらっています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の言動や、一人一人の排泄パターンを把握し、記録しながらトイレ誘導や声掛けを行い、トイレで排泄が出来るように対応しています。	排泄面で自立している人も含め水分排泄チェック表に全利用者分を記録している。記録を見ながら他者に聞こえないよう対象利用者の耳元で声かけし適切なトイレ誘導をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各主治医に相談し、適切な排便コントロールを行っています。体操時には下腹部のマッサージを体操の一部に組み込んでいます。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯は決まっていますが、入浴日は決めておらず、一人一人の入浴時の希望に添い楽しんで、入浴して頂けるよう心がけています。	毎日午後の時間帯に2~3人が順に入浴をしている。心地よい入浴時間になるよう月替わりで入浴剤を変えたり、利用者ごと好みの音楽をかけている。入浴の拒否がある場合は、時間をおいて気分が変わるように支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冬期は、昼夜に「濡れタオル」を居室へ掛けるなどし、室内温度・湿度に注意して、気持ち良く休んで頂けるよう配慮しています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「処方薬ファイル」を見やすいところに置き、疑問時には確認できるようにしています。服薬介助の際には、各職員に見せて間違いの内容に多くの目で見内服して貰っています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者様の趣味や特技を職員間で情報共有し、「裁縫」や「編み物」が趣味の方には、「お手玉・座布団カバー」を縫って頂いたりしてもらっています。料理や食器洗いなどもして頂いています。			

ふれあいの里 グループホーム まごころの贈り物

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候状態や体調を確認しながら日常の散歩の他に、個別対応御家族との外出や、ホームでの室内外「行事」の際は、御家族にも参加して頂けるよう声を掛けさせて頂いています。	冬季以外は車いす利用者も一緒に散歩に出かけ、近隣の花壇を見て戻ったり、ベランダで外気浴をしている。男山酒造、花咲スポーツ公園、旭山動物園に出かけている。普段の買い物には生協まで車で出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族とお話し合いお金を持っている入居者様もいらっしゃいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族と話し合いした上で、時間帯をみながら電話や手紙のやり取りが自由に出来るようにしております。電話は各居室にはありませんので、事務所の電話で対応させて頂いています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が感じられるように、天気の良い日は外で過ごす時間を作るようにしています。壁に歩きながら楽しめる様に行事の写真や利用者様みんなで、作った飾り物を張り付けています。	景色が見渡せる広い居間と、廊下を挟んでソファの置かれている畳敷きの小上りや食堂スペースがあり、好みの場所で気軽に腰かけ利用者同士が井戸端会議の様に話をしている。廊下には行事の写真や利用者の作品、季節の飾りを飾って楽しく過ごせる場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	消防法を確認しながら、廊下に椅子を設置したり、一人の時間をゆつくりと過ごして頂けるよう工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族に確認し、ご本人様が家で生活されていたものを持って来てもらい生活が家からの延長になるように努力しています。	全室床暖房で暖かな居室は、入居前から使っていた物品を持ち込み綺麗に整頓している。タンス、テレビ、観葉植物、家族の写真に囲まれ快適な部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御本人と御家族の了承を得て、居室前に表札や御本人の好まれる絵や写真を飾ったり、トイレの場所が分かるよう「プレート」で示しています。トイレの扉や、便器フタに「便所」と書いた「プレート」を貼って自立した生活が出来るように工夫しています。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192902096		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	グループホーム まごころの贈り物 3階		
所在地	旭川市末広東1条3丁目1-4 ケアサポート末広3階		
自己評価作成日	平成29年12月31日	評価結果市町村受理日	平成30年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>笑顔で皆さんが生活出来る環境の構築に力を入れています、毎日楽しく健康にを目標に日々生活を支えています。</li> <li>個人の意見を尊重し、眠さんが色々な場所で、お話をしたり、編み物をしたりすごされています。</li> <li>事業所の勉強会、会社の旭川地区合同の勉強会などを定期的に行い、職員の知識と技術の向上に努めています。</li> <li>入居者様と天気の良い日には散歩や近医受診の時には、車椅子などで季節を感じながら気分転換を図っています。</li> </ul>
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2017.022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0192902096-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2017.022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0192902096-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年1月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1階エレベーターホールと各階事務所に理念を提示しています。また各階フロアーにてフロアー理念を提示し各フロアーの特色が出る様にしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加出来るようにしています。職員が町内活動のお手伝いを実施し、町内活動(廃品回収お祭りなど)に参加しています。新年会忘年会に参加し関係強化に努めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて認知症に関しての啓発を行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通して、報告、相談、意見などを出してもらい、今後の運営に対して取り組みなどの参考にさせて頂いています。管理者が末広地区の取り組みに参加させて頂いています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	保護課の職員来訪や、「申請手続き」やホーム内外の「事故報告」や介護保険に関する相談や意見を、その都度または監査課の職員の方に相談させて頂いています。他GHの運営推進会議にも参加させて頂いています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、どんなときにも行わないケアを目指しています。資料作成や研修会を行い、ケアを通して利用者様各個人個人の個人性を尊重し日々のケア実践に努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会への参加や、月一回のミーティングの際に「虐待と思われる不適切ケア」に対して話し合いを設けています。毎日の入浴担当者、夜勤職員が寝間着から普段着に着替える時に皮膚観察を行い不適切なケアないか確認しています。		

ふれあいの里 グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名の方が成人後見人制度を利用しています、今年の10月に地区研修会にて青年く牽引制度の勉強会を実施しました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・御家族の方へ「契約書」など読みながら説明させて頂いています。 不明や不安のある点、疑問のある点に関して、随時、事例含め説明させていただき、ご理解や納得して頂いた上で、契約させて頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議「議事録」を開催後に各ホール入り口へ閲覧出来るようにファイル掲示しています。 一階玄関に、「意見箱」設置し、来訪時職員などに声をかけやすい雰囲気づくりに努めています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度のミーティングや日頃より、フロアリーダーとの意見交換を行い、管理者会議・運営推進会議内容や御家族からの要望や意見を分かりやすく伝え、意見や提案を確認しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	H25年9月より、「正社員制度」を導入し、条件や責務内容または実績に応じ対象職員への向上に向けた体制作りや、事前に希望休み・夜勤回数希望を聞き入れ、勤務表の作成をしています。 休憩時間の確保や事業所内の整理整頓を行い、環境整備作りを心掛けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で、職種別(管理職者、中堅1・2、新人)研修・目的別研修を含め、資格取得に向けた外部研修や地域講習への参加や、事業所内勉強会を行うように、ケアミーティングなどの時間を使いながら、継続して勉強できるように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会のお手伝いや他事業所などの勉強会に積極的に参加し、意見交流などを行っています。月1度の他事業所管理者と情報交換や介護劇に参加し。意見や相談を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時などに、言動や表情観察を行いながら、御本人が「今まで生活してきた」ペースを崩さず、不安や要望を話しやすい環境の中で、傍に寄り添うなど安心感や信頼関係が持てるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前にホーム見学していただき、ホーム内の取り組み、受診や職員体制、料金の詳細説明を分かり易く説明させて頂いています。要望などはフロアリーダーを中心に話し合い、改善に向け関係を築くよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設の方針として、今までかかっていた医療機関との関係の継続に努めています、その方が生活してきた情報を主治医がお持ちなので家で生活してきた生活を施設でもして頂けるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の出来る事を確認し、職員間で情報交換を行い、統一した支援内容で負担が無いように、お手伝いしていただいています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族が来訪された際は、御本人の様子報告や希望など聞きとりを行いながらケアプラン作成したり、年4回「まごころ便り」や月一度の写真付き「ご様子」の中で、日々の様子をお伝えしています。御家族にも協力を頂いております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様との自由な外出や、ご自宅への帰宅・外泊や、電話や手紙等のやり取りや、御家族以外の友人や知人の方に面会に来て頂いた際は、「お名前」を伺い御家族が来訪された際にお伝えしたり、御本人の居室で居心地良く過ごして頂けるよう配慮しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者様の個性を大切にし個性を把握出来るように努め各利用者様が他利用者様と交流出来るように配慮しています。また、居室の行き来など出来るように交流に努めています。		

ふれあいの里 グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	23階のフロアの交流が出来るように、敬老会、クリスマス会などの行事を一緒に行い御家族交流も出来るようにしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用し、入居者様の日々の言動について観察し、ご本人様の思いをくみ取り各職員が統一した対応と介護を提供できるようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や在宅の担当ケアマネージャーの方より情報を頂いたり、御本人や御家族より情報を得ながら、職員で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で情報共有し、統一した介護を提供し介護計画に沿って実行できるように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一度のミーティング・カンファレンス時に職員からの情報や計画評価を行い、御本人や御家族の希望、要望を取り入れながら、ケアマネージャーが介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	法人全体で書式を統一し、各グループ間、フロア移動などでもすぐに気付けるようにしています。意識統一も図ってケアプランに沿った内容に出来るようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「外食」「買い物」など希望される方へは、個別対応を行い、その都度、御本人や御家族の「要望」に対応出来るようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お花が好きな利用者様と園芸店へ、「種・苗や鉢」を買いに行ったり、地域ボランティアの方々を招き楽しんで頂ける様に努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、御家族の意向に沿った医療機関を受診しています。なじみの医療機関を変更は特別な事情がない限り行っていません。		

ふれあいの里 グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の利用者の状況報告や相談は系列施設看護師へ系列看護師対応困難な場合は管理者が看護師の為24時間での相談、緊急対応を実施しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、各医療機関の相談員と情報交換提供を行い早期退院を目指します。病棟看護師、主治医をまじえたカンファレンスや病状説明に参加し、施設で出来る事を明確にし退院援助を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約書と共に、「重度化に伴い方針」に基づき説明させて頂いています。 御本人や御家族の希望を確認し、医師・看護師・職員と十分に話し合い「看取り」についての話し合いを進めて対応が出来るように努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルの作成と、緊急時の連絡先も把握しております。 新しい職員には、「救急救命処置」等の研修参加促しをしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	「消防計画」をもとに、年2回、昼夜を想定し職員が避難訓練内容を考え、「避難訓練」を実施。 地域の方へも、参加して頂き協力を得られるように回覧板を用いて参加協力をお願いしています。また、3日分の非常食、水、入居者全員分毛布を準備しています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報や鍵のかかる場所に保管しています。入居者様各個人に合わせた声掛けを行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアを行う上で、職員間にて情報交換を行い思いや希望をかなえられるように取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりが尊厳をもって生活出来るように、体調、その日の気分に合わせて行動してもらっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者自ら衣服を選んで着て頂いたり整容整髪の声掛けを行っています。月一度訪問理美容の利用をしています。		

ふれあいの里 グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に食事をしお話をしたり出来るような雰囲気づくりを行っています。入居者様がご飯の配膳盛り付けを行って下さるので、ケガをしないように配慮しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を各個人記録し、体調に合わせた食事や水分を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は、御本人の出来る事や口腔状態に合わせて、歯ブラシやスポンジブラシを使用したりして、「口腔ケア」を行っています。また歯科往診時には入居者様の口腔ケアなどを相談させてもらっています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の言動や、一人一人の排泄パターンを把握し、記録しながらトイレ誘導や声掛けを行い、トイレで排泄が出来るように対応しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各主治医に相談し、適切な排便コントロールを行っています。体操時には下腹部のマッサージを体操の一部に組み込んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯は決まっていますが、入浴日は決めておらず、一人一人の入浴時の希望に添い楽しんで、入浴して頂けるよう心がけています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冬期は、昼夜に「濡れタオル」を居室へ掛けるなどし、室内温度・湿度に注意して、気持ち良く休んで頂けるよう配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「処方薬ファイル」を見やすいところに置き、疑問時には確認できるようにしています。服薬介助の際は、各職員に見せて間違いの内容に多くの目で見ても貰っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者様の趣味や特技を職員間で情報共有し、「裁縫」や「編み物」が趣味の方には、「お手玉・座布団カバー」を縫って頂いたりしてもらっています。料理や食器洗いなどもして頂いています。		

ふれあいの里 グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候状態や体調を確認しながら日常の散歩の他に、個別対応御家族との外出や、ホームでの室内外「行事」の際は、御家族にも参加して頂けるよう声を掛けさせて頂いています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族とお話し合いお金を持っている入居者様もいらっしゃいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族と話し合いした上で、時間帯をみながら電話や手紙のやり取りが自由に出来るようにしております。電話は各居室にはありませんので、事務所の電話で対応させて頂いています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が感じられるように、天気の良い日は外で過ごす時間を作るようにしています。壁に歩きながら楽しめる様に行事の写真や利用者様みんなで作った飾り物を張り付けています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	消防法を確認しながら、廊下に椅子を設置したり、一人の時間をゆっくりと過ごして頂けるよう工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族に確認し、ご本人様が家で生活されていたものを持って来てもらい生活が家からの延長になるように努力しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御本人と御家族の了承を得て、居室前に表札や御本人の好まれる絵や写真を飾ったり、トイレの場所が分かるよう「プレート」で示しています。トイレの扉や、便器フタに「便所」と書いた「プレート」を貼って自立した生活が出来るように工夫しています。		



目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

作成日：平成 30年 3月 13日

市町村受理日：平成 30年 3月 28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議において、御家族の参加が出来ていない。	御家族が運営推進会議に参加して貰えるように、努力する。	・御家族の参加を継続的に行い参加できるようにお願いしていく。 ・参加が難しい時には会議のテーマを決めて会議に御家族の意見を反映できるように努力する。	6か月
2	35	法人の防災マニュアルと施設内に(地震・水害、停電、火災)のマニュアルがあるが他の災害についてのマニュアルがまだできていない。	・マニュアルにない災害のマニュアルの作成を行う。	・本社と協議の上、不足部分のマニュアルについて作成を行う。(雪害、津波、土砂崩れなど)	6か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。